

A-26 食道癌手術に対するメチルプレドニゾロンの予防的投与の効果

日本医科大学集中治療室、麻酔科^{*}、

石川 源、竹田晋浩、中西一浩、高野照夫、金 徹^{*}、
清水 淳^{*}、井上哲夫^{*}、小川 龍^{*}

食道癌手術は数多くある手術の中でも最も侵襲の大きな手術の一つである。高カロリー輸液、人工呼吸管理の進歩などにより手術成績が上がったが、頸胸腹3領域リンパ節拡大郭清や上縦隔、気管周囲の徹底郭清が行われるようになり術後肺合併症はいぜんとして最も重大な合併症である。今回の研究の目的は食道癌切除術における呼吸不全に対するメチルプレドニゾロンの有用性について各種パラメーターの変動の面から検討すること。

【対象】

対象は食道癌手術症例30例。手術方法は右開胸、開腹術による食道全摘または亜全摘に3領域リンパ節郭清を行った。再建臓器には胃を用いた。

【方法】

対象を2群に分けた。1つは手術開始前にメチルプレドニゾロン30mg/kgを静注した群（M群15例）。もう1つはメチルプレドニゾロン非投与群（C群15例）である。測定項目は過酸化脂質、アルファトコフェロール、コレステロール、アルブミン、バソプレッシン、アドレナリン、ノルアドレナリン、を麻酔導入前、手術24時間後、48時間後に測定した。また血液ガス分析も随時測定した。

【結果】

バソプレッシンは両群とも有意な変化なし。コレステロールはC群で24, 48時間後有意に低下、M群は24時間後のみ低下、48時間後に両群間に有意差あり。アルブミンはC群は有意な変化なし、M群は48時間後有意に増加。アルファトコフェロールは両群とも24時間後軽度低下し48時間後有意に上昇。過酸化脂質はC群で24時間後に有意に低下、M群は変化なし。アドレナリンは両群とも24, 48時間後に有意に上昇。ノルアドレナリンは両群とも24, 48時間後有意に上昇、48時間後両群間に有意差あり。PaO₂/FiO₂は両群とも術後より有意に低下、24時間後よりM群に比べC群が有意に低値であった。ICU滞

在日数はM群がC群に比べ有意に短かった。

【考察】

メチルプレドニゾロンは食道癌手術に対し有効性が認められた。